

PM資料ガイド

項目	Project Management Software プロジェクトマネジメントソフトウェア PMS (Project Management Software)	Rev.	年月日	作成
		0	030331	富田正道
対象	一般			
視点	基本解説			

Project Management Software プロジェクトマネジメントソフトウェア

プロジェクトマネジメントソフトウェアとは、プロジェクト遂行に先立って実行計画を策定し、プロジェクト遂行に伴ってコストやスケジュールをコントロールして、プロジェクトの目標を達成するのに、何らかのコンピュータソフトウェアなしで済ませようとするのは、現実的ではありません。このような、プロジェクトマネジメントで使用するソフトウェアを、プロジェクトマネジメントソフトウェアあるいはプロジェクトマネジメントシステムと呼んでいます。略称として、PMSといった表記も見られます。PMSという表記は、他にも、Performance Management Systemなど、多くの用語の略語にも使用されることがあることに注意を要します。

プロジェクトマネジメントソフトウェアは、市販されているものを使用しても、個々のプロジェクトに要求されるマネジメント機能に合わせて個々に作成してもよいのですが、現時点では、市販されているソフトウェアを利用して足らざるところを個々に作成するソフトウェアで補う、あるいは、個々に作成するソフトウェアに市販ソフトウェアを組み込むのが一般的であると思われます。

ここでは、市販されているプロジェクトマネジメントソフトウェアについて知るという観点から述べます。まず、最初に、個々のプロジェクトに要求されるマネジメント機能をすべて満たすプロジェクトマネジメントソフトウェアは、市販されているものには、無いということを認識しておく必要があります。

ところで、プロジェクトマネジメントで、最も重要な要素は何でしょうか。それは「時」です。その作業は「何時」行なうのか、その資材は「何時」必要なのか。プロジェクトマネジメントにおける情報で「何時」を伴わない情報は情報としての価値がないのです。さまざまな情報に伴う「何時」に矛盾がないように調整する機能が「スケジューリング」です。プロジェクトマネジメントにおいて最も重要な機能がスケジューリングであるといっても過言ではありません。

この点に基づいて、市販されているプロジェクトマネジメントソフトウェアは、スケジューリングが基本機能になっています。ソフトウェアによってはスケジューリング機能しかないものも少なくありません。

また、ソフトウェアによって、マネジメント機能および仕様が、予め決められたことしかできないもの、各々のマネジメント要求に応じて調整（カスタマイズ）できるもの、スケジュールリング以外のマネジメント機能は総て各々のマネジメント要求に合致するように容易かつ迅速に作成できるようになっているもの、日々の作業で発生するプロジェクトマネジメント用データ収集システムと容易かつ的確に連携できるもの、他のソフトウェアに機能を付加（アドオン）するようになっているもの、等々、様々な製品があることを、理解しておくことが重要です。

以上の予備知識をもって、資料を見てみましょう。個々の市販ソフトウェアについて詳しく知るには、それぞれのカタログやマニュアルを見る必要があります、実際に、試用してみる必要もあるのですが、その前に、一般的なことは、どのような製品があるかを知る意味でも、資料で知識を得ておくことが有用です。

まず、プロジェクトマネジメントソフトウェア一般について概要を知るための資料として、
大崎康生，“PMツールの紹介”，JPMFジャーナル，第11号，pp1-5，日本プロジェクトマネジメントフォーラム，2001

が挙げられます。

この資料では、プロジェクトマネジメントソフトウェア開発の歴史、道具としてのソフトウェアの利用目的と使い分け、我国で入手できる代表的な製品の機能概要などが簡潔に述べられています。

また、この資料には、「PMツールの調査・評価試案」と題する、機能の比較一覧表がついています。ソフトウェアを選定するときのひとつの参考資料となるものですが、どのような機能をどのように調べるかは、各々のプロジェクトで何をどのようにマネージするかによって異なることに注意しなければなりません。ソフトウェアの選定にあたっては、各々の立場で各々の目的と要求事項を機能と仕様レベルまで明確に記述したうえで調査し、各々の視点で評価を具体的に記述することが重要です。機能はあっても要求する仕様には合わない製品が多いものです。

次に、プロジェクトマネジメントソフトウェアについての詳細な調査レポートとしては、
“Project Management Software Survey”，Project Management Institute, 1999
があります。

このレポートは、調査チームが作成した質問への、各ソフトウェアのベンダーからの回答を整理したものです。評価をしているわけではありません。

調査内容は、各ソフトウェアの全体概要を記述した部と各ソフトウェアの機能別調査の部で構成されています。機能別調査の部は、

- Process Management Software

- Schedule Management Software
- Cost Management Software
- Resource Management Software
- Communications Management Software
- Risk Management Software

の6種にカテゴライズされています。各ソフトウェアは、必ずしも、この分類で作成されているわけではないので、同じソフトウェアが各所に記載されていることに注意を要します。つまり、このレポートは、各ソフトウェアの機能を、カテゴリー別に調査したものになっているのです。機能調査結果は、一覧表と補足的な記述で構成されています。

このレポートの有用な点として、最初の、

Introduction: How to Use This Book

で、調査要領や調査にあたっての用語の定義などを、13ページにわたって、詳細に述べていることを特記しておきます。

プロジェクトマネジメントに関するテキストや実務書のなかにも、プロジェクトマネジメントソフトウェアに関する記述にページを割いているものがあります。例を挙げると、

テキストとして、

Meredith, J.R., Mantel, S.J. Jr., "Project Management - A Managerial Approach", Fifth Edition, John Wiley & Sons, 2003

の、Computerized PMIS (Project Management Information Systems) という節に、ソフトウェアの種類や選定に関する記述があります。また、Project Management Journal の98年9月号に掲載された、Tools of the Trade: A Survey of Project Management Tools と題する記事が転載されています。

実務書として、

Levine, H.A., "Practical Project Management - Tips, Tactics, and Tools", John Wiley & Sons, 2002

では、Tools of the Trade という章を設けて、ソフトウェアの機能と選定について述べているほか、随所に、ソフトウェアの利用などに関する内容が盛り込まれています。また、最近のスケジューリング技法である Critical Chain Project Management (CCPM) に関するソフトウェアについても触れています。

プロジェクトマネジメントソフトウェアに関する資料としては、各業界誌や学会誌などで、定期的あるいは不定期に、ソフトウェア一覧などの特集号を発行しているものがあることを付記しておきます。最初に挙げた資料が掲載されている、JPMFジャーナル第11号も、PMツール特集号になっています。この分野は変化が速いので、最新の情報を入手することが、実務上、欠かせません。